日本鐵鋼協會記事

◎日本鐵鋼協會第四回總會記事（續）

大正八年三月二十九日午後二時開會

○開會の辭　　**會長　今泉嘉一郎君**

是より第四回通常總會を開きます、大正七年度中は御承知の通り我日本製鐵事業發達史に於きまして空前なる盛況を呈しました、是は我々協會の豫ての目的に對しまして洵に喜ばしいことであると御同樣に存じます次第でありまして我々は此大正七年の盛況と云ふものを以て決して普通の成行とも考へず、又此盛況を以て將來永く傳へ得らるべきものとも考へませぬ、此空前の進歩なるものは全く一時の現象であると云ふことは想像致して居るのではございまするが、何分我日本の製鐵業と云ふものは、歐羅巴先進國の製鐵事業に較べまして百年以上も遲れて居るのでありまして、それで斯う云ふ機會を提へて、少しも早く此先きに進歩して居る國に追付かうと云ふのには誠に好い機會であつたのであります、それが昨年の年末に至りまして是は豫て期待したることでありますが、戰は終に終はりました。其終つた結果として我々製鐵事業界の情況と云ふものが、實に豫想以外の變動を生じました、それが爲に折角發達した所の日本の製鐵事業と云ふものは、茲に容易ならぬ創痍を受けたのであります、勿論多少の障碍を受けると云ふことは豫て想像して居たのでございますが、其程度が餘りに甚しく且急激なのでありまして、多數工場の中には手酷い損傷を受けて、之が爲に再び起つことが出來ぬやうなものも生ずるかも知れませぬ、即ち此戰爭中に爲したる所の施設と云ふものを、全く畫餅に屬するやうにしなければならぬものもあるかも知れないが、我々は誠に協會としても歎かはしい次第であります。

併し多數工場の中には設備の完全でないものもありますから夫等が戰局の終結と共に斯かる打擊を受くことは致方ないものとしましても、相當なる計畫に基いて相當なる準備を遂げたる所の、組織ある工場に對しては、假令一時の故障はありましても、遂には相當の發達を遂げさせたいと云ふことを御互に希望する次第であります、で、それに付きまして我々協會は勿論のこと、世間一般の識者間に於きましても、大に此機會に於て曾て唱へた所の鐵鋼自給論を更に一層聲を高くして呼ばなければならぬやうになつたのであります。そこで當協會も評議員會を開き種々相談を遂げまして、私は會長と致しまして會の議決を農商務大臣へ提出致したのであります。又日本工業倶樂部其他の各種團體に於きましても夫々意見を持出しましたのであります。其處で政府に於ても相當考慮を費して居らるゝと云ふ事であります。

それから社會一般はどうであるかと云ふと、製鐵事業が一時戰爭中に相當なる利益を擧げたと云ふことが、如何にも一部の論者に依て妙な感じを持たれまして、即ちそれが羨望となり、或は誤解となり我々の運動に對して故障をなすか或は少なくとも充分の贊同を與へない材料になつたのであります。それで大體世間の反對論と申しまするものは

之を三つに別けることが出來ます。第一には誤つたる理想論、即ち百五十年前に英吉利の學者に依て唱へられた自由貿易論、今日日本の位置として用ゐることの出來ない其誤つた理想論が、最も今の或有識者間に行はれて居る。第二には實際の事情を知了せず只外見のみを觀て感情で論ずる人、即ち我製鐵事業は戰爭中利益を相當に擧げて居つたではないか、それであるからして、戰後に至つて少し位困つても仕方がない、又戰爭中に相當の利益を擧げて居る間に何故此必ず終はるべき所の戰後の準備を爲して置かなかつたか、さう云ふ感情論。それから第三には是も皮相の見解に基ひたる杞憂論である、即ち製鐵事業を保護したならば鐵を需用する所の他の事業に害を與ふるものではないか即ち需要者に迷惑を掛けはしないかと申すのであります。それからもう一つも同じく杞憂論でありますが、日本には原料が無いではないか、鐵鋼の自給に對しては其れに相當する原料が乏しいから、如何に奬勵をして見た所が將來どうする。斯う云ふ風の反對が大分でございます、それに對して我々は機會さへあれば必ず說明の勞を執つて居るのでございますけれども、奈何せん、社會一般に上から下まで製鐵事業に對する智識が極めて幼稚、其幼稚さは十年二十年前も今日も殆んど同じ樣な幼稚である、夫れ故此等の人々にして充分に事情を了解せしめ更に進んで國の製鐵事業なるものは他の普通工業と同一に論すべきものにあらず、如何なる犧牲を拂ふも相當の發達を遂げさせなければならぬと云ふことを觀念せしめ更に政府當局者をして相當の處置を執らしむると云ふことには、遺憾ながら尙ほ相當の時日を要するものであると思ふ。

併ながら戰爭前に於て我々が何程申しましても一向冴へなかつた所の種々の建策が、此戰爭中に大に行はれまして鐵の自給自足と云ふことは實に必要なことであると云ふことを、時局と云ふ自然の壓迫に依て社會一般が初めて痛切に感じた如く、今後に於ても斯う云ふ自然の壓迫に依て社會が更に自然の敎訓を受けると云ふことが起つて來はしないかと私は思ふ、即ち此有樣を以て推移して參りますると將來日本の製鐵事業はどの位世界に後れてしまうものであるか、日本の貿易狀態、經濟狀態がどの位惡くなつて來るか、日本國が其政治上經濟上どの位外國の壓迫を受けるものであるかと云ふことは、必ず他日に於て現はるゝであらうと思ふ。此の如き自然の敎訓を受くるに及んで初めて更に鐵の自給自足を絕叫するに至つては時期既に遲ひのであります。我協會は他の一般社會より斯道に關して一層優つたる知識を有するものでありまするから、假令一時の困難は有つても他日臍を嚙むの悔なからしむる樣一般を指導すると云ふ事が其職務であると考へます、夫で及ばずながら私も當協會の會長をやつて居ります以上、自分では相當のことはやる積りでありますが、尙ほ諸君に於ても御思ひ付きのことがございましたならば、相當の御鞭撻を給はりたいのであります。茲に總會に際して大體の經過を申上げた次第であります。

○晩餐會卓上演說

野呂工學博士　頭が禿げて居るので一番初めに起つて甚だ申譯ありませぬ、何をお喋舌りをして宜いか、さつぱり

分りませぬ、私は第一に此會が非常に盛んになつたと云ふことを非常に喜ぶものであります、實は此會は是程盛んになると云ふやうな考へを以て我々は此會を起したのではありませぬ、此會の趣意が時世に適合して輿論も茲に一致したのか、續々として會員が殖えまして、今日では豫想外に千五百名までに達して居る、元と此製鐵のことゝ云ふものは日本鑛業會の一部であつて、其鑛業會から今は離れて居るけれども、謂はゞ鑛業會とは餘程深い關係を有つて居つて、鑛業會は實はお父さんみたいなものであるが、今日の有樣は如何であるか、お父さんより此會の方が却て會員が殖えて、鑛業會は千三百人、此會は千五百名にも殖えたと云ふことは至極喜ばしいことである、併し會は唯會員が殖えたゞけで盛んであると云ふことは出來ぬ、會は會だけの何か爲したることがなければ何んにもならぬ、世間に於て其れだけの効能を爲さなければ會が盛んになつたとは謂はれない、其點に於て私は未だ滿足することは出來ない。今此製鐵事業の有樣を見ますと、戰爭中は殆んど是も豫想外に非常に發達したやうであるけれども、是は本當の發達ではない、唯一時の進みと云ふことのみでなく、此進んだと云ふものを退かぬやうに維持して行くと云ふことを此會が大いに努めなければならぬ點だらうと思ふ、で是等のことを十分に成し遂げて始めて此會が盛んになつたと言はれるだらうと思ふ。

扨て然らば戰爭中に發達した所の此製鐵業を如何にして維持して行くか、今日少し衰退になつた、之を如何にして挽回するかと云ふことの問題に付ては、諸君の中にも皆々研究はして居られる、其中當面に現はれた所は先刻今泉君が言はれたことである。此ことを私は今日問題と致しまして、諸君に三分なり五分間なり御意見を伺つて、此御意見に從つて又會に於ても其方面に進んで行きたいと思ひます今表面に顯はれて居る所は、先づ第一に輸入稅を設けなければならぬ、是はもう誰が見ても、どつちから見ても動かすべからざる事である、唯造船のお方が之に反對するのは間違つて居る。それから其次には合同問題であります、是も中々問題はむづかしいが、矢張りどうも總ての業に於て內輪の競爭と云ふことは免がれない、內輪の喧嘩をして居る間にどうでもなるから、內輪で競爭をして、そこで一つ合同と云ふことをしなければならぬと云ふことも又何所かにある、或は反對が出るかも知れない。其次には是はまだなぜか此問題になつて居らぬと云ふ不思議の問題は石炭の問題であります物價が高い、米が高いと非常に騷ぐが、まだ石炭が高いと云ふ騷ぎは甚しくない、是も大分石炭で頭を惱して居る人があるに違ひない。それからもう一つ持出したい問題は勞働者勞働と云ふとどうも日本人は極端の問題で、職工を非常に優待をして解決することを考へるが、それは大變な間違ひだらうと思ふ。勞働賃と云ふものを餘り上げなくして、勞働者に愉快を與へて、さうして其勞働者が從つて居る仕事のエフシエンシーを殖やす、是は餘程むづかしいやうであるけれども、やり樣に依てさうなるだらうと思ふ、さうしなければ、今日のやうに無暗に職工賃が高くなつて、中々石炭と云ひ、殊に勞働、原料、兩方が高くなつて、幾ら諸君が骨を折つても外國に取られて仕舞

ふ、先づ私が今頭に浮んだ所で將來に考へなければならぬ問題は此四つであります。其外にまだ澤山ありますが、どうか三分でも五分でも宜しうございます、續々御說を伺ひたいと思ひます、其次には私から云ふとちよつと反對の人で又頭の方で云ふと白い方の鹽田さんに一つ願ひます。

鹽田工學博士　どうも一番此鐵のコントロールとか、關稅の問題に反對したのは造船協會がやつたのです學會としては、私も其の方に名を列ねて居るもので、此中に一人、水の中に油が混つたやうに、或は獅子身中の虫と云ふか、甚だどうも憎まれ役で、先刻から斯うやつて見て居ると、會長の眼と野呂博士の眼が何んだか私をギョロ〳〵御覽み付けのやうで氣味が惡るくて困つて居ります。何か一言申上げなければなりませぬから、意見を申上げます。先づ初めから申しますと、野呂博士は鑛業會のメンバーよりも此會の方が多くなつたと仰しやる、又それからちよつと聞きますと結束が緩いやうだと云ふ意味が這入つて居りましたが。是は大分此鐵鋼協會は需要者の顏が見えて居りますし私のやうな者まで御取入れになつたから、自然に內に色々の論者があります、矢張り尨大を來したり、議論も雜駁になるもので、此會としては免がれぬことだらうと思ひますそれから今泉博士が御纂めになつた鐵問題に關するものを有難く頂戴しました、各倶樂部學會に關係したやうなものを集めてありますからですが、造船協會と云ふものは、此鐵の關稅を上げると云ふことは困る、併しそれにも私は能く記憶いたしませぬが、それは鐵の方の關稅を上げたらばそれを償ふやうな方法を政府が設けられる方が至當だと云ふやうなことで、而して其執筆者の名で少し此鐵鋼業者に鉾先が向いたやうな所があつたやうに思ふですが、文句は色々いぢくり居つたやうなことで、どうも碌な文章も出來て居らず、後から見まして非常にまづい〳〵と云つて居ります、併し私の責任でございますから……それで私も白狀いたしますが、此鐵の這入らぬ時は、皆需要者造船業者始め非常に泣いたものであつた、今日來るやうになつてからもう忘れたが如くである、此態度は私も同じ側の人として甚だ滿足しない、どうももう少し外國は製造業者需要者當業者の間が旨く出來て居るやうでありますが、日本はまだ共同生活に慣れない爲か我利の主張が多いやうでありますどうか是はあなた方先輩先覺者の御斡旋で成るべく大勢の人を寄せると仕樣がないが、兩方極端の人を集めて、能く話合つて、どうか妥協點を見出したいやうに存じます。それから勞働者、勞働問題は野呂博士の御說に至極私は同感でございまして、是は兎に角勞働賃銀、勞働者も相當に優遇をして、先づ勞働と資本を同じものとすれば、相當待遇をしなければならぬが、奈何せん、日本は此天惠の少い國であつて、資本も少いのであるから、僅かに勞銀が廉いと云ふことで日本に取れるのである、之に賃銀が高くなつたらば到底外國と總ての製造工業に於て競爭することは出來ない、內地の勞働者が職業を失する結果になる、決して賃銀が廉いとか、無暗に待遇を善くしたりすると云ふことは勞働者の幸福でも何んでもないだらう、至極是は御同感であります、兎角近頃は歐羅巴でも勞働問題は行詰つて居るが、日本も直ぐさうなるやうに言ふのは宜くない、非常な

害がある、謂はゞ煽動的と云ふても宜いと思ふ、是は皆少し抑へてやらなければならぬことのやうに存じます、もう一つ何かございましたけれども、私はまアそれだけで御免蒙ります。次は横堀君に願ひます。

横堀工學博士　私は若い時分には鐵の方に從事して居りまして、鐵を以て立派な學者にならうと云ふ考へを有つて居つたが、少し方向を轉換いたしまして、今は普通の立場に於て實は勞働者である、けれども、野呂先生は私の恩人であります、今泉會長又香村博士は私の學兄であります、さう云ふ點から此鐵鋼協會に對して非常な私は希望がありますし、又卑見を申上げます。本日は桂博士水崎君の御說を伺ひまして、極めて適切なることゝ感じたのであります別けても水崎さんの御話は私も其方面に多少目下の境遇は關係を有つて居るものでありまして、非常に面白く拜承したのであります。私が今間接に一の後輩者を得むとしまする態度は幾らか水崎さんが御話になりました趣旨を以てそれと似たやうにして進めて居る積りであります、何んでも宜い、兎に角旨い物を食つて、十分滋養を攝つて、さうして働けよ、斯う云ふ主義を以て私は進む積りでありますが尙ほ水崎さんの御話の中に公共的觀念と云ふことがありました、又鹽田さんの御話にも公共的觀念と云ふことがありました、是は誠に御同感でありまして、少し先づ最近の御話を申しますれば電車のことであります、寧ろ電車が一層適切に感じて居るので、四五年前と此頃の電車と比較して見ると一層ビク〳〵して居るのは、三ヶ年も前はお婆さんが來ると、若い人が立つて席を讓つたものです、所が色々西洋から毒がやつて來るとか何とか言ひますが、段々日本人も近來は公德心が日本的になつて、此頃ではお婆さんが來ると眼を閉ぢて斯うやつて依然として動かないと云ふやうなことが澤山になりました、却てさう云ふ傾向が殖えつゝあると云ふことを見る、是は洵に歎ずべきことであります。

それから又是は何れも一時のことで、大した心配はなからうと思ひますけれども、さう云ふ一の傾向として、ちよつと申上げたいと思ふことは、立派な教育を受けた人の頭にも、矢張りさう云ふ風の觀念が續々あるやうな例がある例へば茲に大學がある、自分は此大學に教へて居て、此大學は非常に善いと思つて居るから永く此大學に居る、是は當然でありますが、其自分の子供を教育するときには、自分の大學ほど良いものはないと思はぬ、それで餘所の大學に託して子弟の教育をやる、斯う云ふ傾きがある、さう云ふのはですナ、是はどうも日本人の通有なんで、自分自身を偉いと思つても自分の子供に對しては不安を懷く、だから先刻水崎さんが御話になりました……或は水崎さんの御話になりましたとも、さう云ふことは望まれぬと云ふやうに歸着すると私は聽いたのであります、是は鐵鋼協會には關係はないことゝ思ひますが、それは私が偶々今日有益の御話を水崎さんから伺つて感じた餘り申上げましたのであります。扨て鐵鋼協會の仕事に付てちよつと申上げておきたいと思ひますが、此製鐵の奬勵のことに付きましても私も及ばずながら考へて居る一人であります、關稅とか何とか云ふことではございませぬですけれども、私は銕の鑛石

を保護する意味に於ては、及ばずながら或は言葉の上に、或は筆の上に於て多少注意を加へて居るのであります、それは其れと致しまして、兎に角此製鐵事業に付て私は斯う云ふ考へを有つて居ります、內地で以て段々製鐵事業を起す、當然又起さなければならぬのでありますが、同時に支那に於て製鐵事業を日本人の力で以て、日本的に發達することを考へなければならぬと思ふのであります、それでまあ國家は將來に於ても支那の鑛石が段々日本に參るだらうと思ひますけれども、丁度英吉利が亞弗利加の鑛石、或は亞利加が玖瑪の鑛石、或は南米の方から鑛石を入れると云ふことも豫め承知して居るのでありますから、餘所から鑛石を持つて來れば日本も何んでもないやうでありますが併し向ふの英、米、獨等の例は石炭の澤山良い物のある所を有つて居る。日本は石炭が餘程良くないのでありますから、製鐵事業を起さうとすると、鐵鑛を運ぶと同時に石炭を心配しなければならぬと云ふ立場になつて居る、それでありますから、兩方共に心配をしなければならぬのであります、是等は英吉利、亞米利加、獨逸等と多少其關係を異にして居ります、幸に支那の方には良い石炭がありますし又良い鐵鑛もあるのでありますから、其兩方ある所を利用して、私は支那で製鐵事業を日本人が起すと云ふことは如何にも面白いことゝ思ひます、內地で起すも宜しいが、同時に其方面に着手することが非常に必要と思ひます、偶々大島博士が向ふで大に計畫されて居るだらうと思ひますが私は更に進んで尙ほ少し地の利を考へ、又勞働者等のことを顧みて、もう少し經濟的なり、或は事業的なりの意味に於て製鐵事業を起したら宜からうと思ひます、それは私自身の考でございますけれども、皆さんの御說の通り、萍鄕のコークスは非常に良いのであります、日本の鐵でも今泉博士は日本製鐵所で御研究になつたのでありますが、其の萍鄕のあの良い石炭を利用して萍鄕方面、或は長沙附近、或は漢口なり、さう云ふ所で以て少しなりとピッグを造ることも宜いことだらうと私は考へて居ります、どうか日本人の力に依てさう云ふ機會を捉へることが出來たらなら幸ひだと思ひます、是はホンの自分だけの考へであります、思ひ〳〵の說を述べろと云ふ會長の御話でございましたから、自分だけの考を申上げたのでございます、次は原田君に願ます。

原田工學學博士　御指名に預りまして、自分は何を申上げて宜いか別に御話もありませぬ、併しまあ殆んど此製鐵に付ては今は準備時代のやうな氣が致します、製鐵業に對して石炭の方はどうしたら宜いだらうか、只今野呂博士が色々言はれましたが、我々共も今泉君と事を謀り、色々の方面に於きまして出來るだけ一つ救濟の途を講じて貰ひたいと思ひます、其石炭のことは何も申上げられませぬ、色々やりましたけれども、どうもまだ世間一般に戰爭中大に儲けたらうと云ふ風の感情でございまして、結局能く內情が分つて居ない、左すれば成るたけ分るやうにしやうぢやないか、既に先日も鑛業會で說がありまして、共に大に研究しやうぢやないか、さうして色々の方法を考へて、何とか成立つて往くやうな途を講じやうと云ふことの打合せなどもありましたから、何れ又石炭のことに付て改めて御話

が出ることゝ思ひます、唯私が考へて見ると、三菱でも最も戰爭前から自給自足の方法に非常に金を掛けてさうしてやつて來て今日大變苦んで居る譯であります。昨年の午歳には非常な跳つ返りて大に景氣が好かつたが、今年は考へて見ると未の歳、是は未の歳の濁を取つてヒッシの年であります、どうか皆さん御同業の御方にはしつかりやつて頂きたい、色々の方法に付て皆さん方の御協議を願ひたいと思ひます、次は俵君に願ます。

俵工學博士　製鐵の救濟策に付て色々御說も出ましたし問題が出て居りますのでございますが、此ことに付きましては色々議論がありますることだし、又色々考へなければならず、頻りと考へて居ることだらうと思ひますが、唯ちよつと私が大に感じた其事柄を皆さんに御傳へしたいと思つて居ります、詰り問題はどうしても斯うしても色々の保護、其他の便宜がありましても是は一時、尤も一時の急は無論助けなくちやならぬのでありますが、到頭は技術を進歩させなくては、どうしても斯うしてもいかぬと云ふ事柄で、段々と新しい話で自分の耳に這入り、又大に研究したいのでありますが、戰爭中にはどうも總ての技術に付てさうでありますが、製鐵に付きましても或は落ちやせぬかと思つて居ります、無論其は事情がさう云ふ事情になつて居りますので、戰爭が濟みますと云ふと、總て又元に還つて段々技術の向上と云ふことに無論往く話でありませうが、今度佛蘭西から飛行將校が澤山見えて居ります、是は軍人でありますから、唯所澤へ行つたり、岐阜縣へ行つて飛ぶだけのものと自分などは窃かに思つて居りました。所が段々話を聞いて見ますと、佛蘭西でも、英吉利でも、或は亞米利加に於きましても、將校がさう云ふことをやるさうであります、非常に技術に皆精しい、所澤へ行つて宙返りをすると云ふだけでなく、是はまあ多少內輪の話になるかも知れませぬが、飛行機の將校でも佛蘭西から來た人が講演を致して居る、其模樣を聞きましても、又此人に就て個人的に色々話をする所を聽きましても非常に細かい。例へて申しますと、或鋼を造ると云ふやうな技術に付きましても非常に詳しく知つて居られますやうに承知致します。それで今日幸に佛蘭西から非常な同情を以て寄越されましたのでありますから、日本では此機を逸せずに頻りと傳授を受けて居られることでありますが、西洋人は將校でさへも技術が非常に詳しいのであります。昔から戰爭では日本は年一年と進歩をしたが、却つて其れ以上、今度は技術の向上を謀るやうに努力しなければならぬと云ふ考へを有ちました。佛蘭西は今非常に優秀の將校を得られて居ると云ふことをちよつと御話をして置きます。次は阪田君に願ます。

阪田工學博士　私の番は詰り時間の繼目と云ふ意思であるだらうと思ひます、先程野呂君の鐵鋼協會は是程盛んにはならぬだらうと思つたがと云ふやうな御話がありましたが私は今、日本では過渡時代であるから、會員も大變殖えるが宜しいとであります、何れ其形は變はるものでありますから……それから關稅を高くしなくちやいけないと云ふとは言はなくつて宜いとだらうと思ひます、私の方は專門が機械でございますから、何んでも廉くして……關稅を高くしますと益々機械工業の方は減つて無くなつて仕舞ふて

すから、どうも私の方から言ひますと、關稅などはどつちでも宜い、廉く拵へて頂くと云ふことが最も望ましいことであると思ひます、先程の御話の中にシユワツプの話が出ましたが、シユワツプが英吉利に行つて陸軍大臣の部屋で以て書いた言葉の一部分が出て居りました、それは譬の中に「戰爭は機械の力」と云ふことが出て居るです、どうしても此機械の方が十分發達しなくちやならぬ、然るに鐵が高くなつて見ると誠に困ります、どうか鐵を供給することを廉く御願ひ致します、それから又勞働問題、或は技術に付ても俵博士から御話がありましたが、野呂さんの御說も全然同意致します、どうも技術の發展上まだ痒い所に手の屆くまで技術者の方が進んで居らぬと私も思ふのであります、もう少し致しますと、十分の研究をし、又經驗も得られることでありますが、此點は全然俵君の御說に同意であります、時間でありますから……

今泉會長　私もちよつと……鹽田博士、或は今阪田博士から廉くするやうに言はれましたが、そこであります、即ち製鐵業は基礎工業であります、基礎工業が利益を得て、大工業者に廉い原料を與へる、其爲めに玆に一時高い鐵材を與へる、即ち一時的關稅を上げるのは何であるか、此市價を上げる所以のものは、丁度病を癒すのに一方に外科療治をする、嘗て佐藤進さんが腰に劍を提げて居りまして、さうして李鴻章の療治に往つた、所がお前は軍醫ではないか、軍人の樣に腰に劍を提げるのは何んだ、と言はれて返答に困つたから、出鱈目に是は活人刀である、殺人刀にあらずと言つたさうであります、今醫者が刀を執る所以は詰り人を活かす、即ち病人が一時苦痛を忍んで外科療治を受けるのも已むを得ない。それと同じく、即ち基礎工業の爲めに、暫らく犧牲を拂はなければならぬ、他日永久高い物を使はせる位の工業ならば發達させるのは無用である、斯う云ふものは甚だ奬勵する必要はありませぬが、日本が工業を飽まで發達させなければならぬと言ふならば、一時は苦痛を忍んで貰つて、他日廉い原料の鐵を供給したいと云ふのが本意だらうと思ひます。それから俵博士の技術は大に奬勵しなければならぬ、此戰爭中大變技術が退歩したと言はれるのは、至極御尤である……けれども是は全く時節柄已むを得ず、原料がない、原料が無くて、一時急激に內地で產額を十分にしやう、使ふ方は何んでも宜い、斯う云ふ狀況の爲めであるから是は時期を待て今後直すべきものだらうと思ふ。勞働問題に付きましてはもう鹽田博士の言はれることが、實に私の意を得たことゝ思ふ、其通りであります、今日の時代は經濟學者なり、心理學者なり、色々の方面であんなことを申しますやうでありますが、今日日本の工業界が外國と競爭をして往ける所以のものは、他に何んにもありはしない、眞に勞働——職工の廉いものを使へると云ふ唯だ一事である、それでも他に奪はれる、それも宜しいけれども、それは勞働者を待遇する本領であるかと云ふと、本領にあらず、段々研究して見た結果、日本主義の人情、溫情主義が矢張り歐羅巴でも一番良いとして眞似をするだらうと思ふ。其は何んでもない、因襲に依つて之を日本流で飽迄進めて行て外國人をして之に倣はしめる位にしたいと思ふのであります。(拍手)

鹽田工學博士　私は造船協會、鑄鋼協會、兩方に首を突込んで居りますから、昨日と今日と言ふことが違ふやうにひよつとすると御考へ違ひがありませうが、全くさうではないので、今阪田博士の御話と私のは違ふ、それで私が數字を以て申上げまするとと、此機械類の製作はまア私は或一二の機械に付て申すのでございますけれども、鐵の量と云ひ、或はスチール、キャスチングであるとか、其他の物と其原料の價よりは五倍位の代價が自由に取れた、もつと精巧の物はもつと取れた、一臺の割合で賃銀、それからチャーヂに屬する原料のパワーと云ふものが餘計に含んで居るものと、船とは大分材料が違ふ、船でありますと、總體に船價の六分の一には上ぼらぬのです賃銀も、それで其船體は鐵材が主もなものである、其方から云ふと、造船業は一日も成立たぬ、加ふるに奬勵金が消滅したから少しもいかぬ。此鐵鋼協會でも此製鐵に關する委員會のあつた時には其時分は此造船協會は今の會長寺野博士が居られました、其時さう云ふことで引下がつた、其次に機械製作者などは割合に其影響が少ない、又其機械を以て生産をすると云ふ紡績業などでは重大なる工業である、それで鐵の價は綿絲に及ぼす影響は少ないからして、造船業だけ埋合せを付けて先づ宜いだらうと云ふことであつた、却つて私は其節は……今日も負けて居りますが、是は阪田博士のと少し意見が違ひます、どうせ多數には少數は勝てないものであります、此通り……（拍手）

◎理事會

大正八年五月二日（金曜日）午後五時より本會事務所に於て理事會を開く、當日の會議事項は左の如し。

一、皇太子殿下御成年式賀表奉呈の件（可決）
一、雜誌交換の件
一、退會者の件

當日出席者は左の諸氏なり。

今泉嘉一郎　俵國一

◎編輯會

大正八年五月二日金曜日午後五時より編輯會を開き會誌第五年第五號の原稿を選定せり、當日出席者は左の諸氏なり。

俵國一　井上克己　櫻井爭三　室井嘉治馬

◎入退會者

前號報告後入退會を承諾せられたる會員左の如し。

退會者（住所及職業）

東京市外淀橋柏木二二三　三井鑛山會社技師　正會員　西山正吾
東京市日本橋區本材木町二　鐵鋼商　同　大谷壽衛吉
八幡市製鐵所前田官舍　製鐵所技手　准會員　小屋原總三郎
大阪市西區立賣堀北通二ノ一七　銑鐵商　同　石原善平
北海道小樽市三菱商事會社社員　同　杉山三五郎
東京府下品川町淺間臺二三二　鑛山業　同　伊藤吉太郎

鳥取縣日野郡黑板村字福長　鐵鋼業　准會員　清水重三郎
神奈川縣川崎町小土呂、八　日本鋼管會社員　同　武南倉造
大阪市西區北福崎町住吉神社內　同前　庭田隆吉

入會者（住所及職業）

秋田縣土崎港町日本石油株式會社　正會員　秋田出張所
東京市牛込區神樂町二丁目一七　古川鑛業會社重役　同　淺野幸作
新潟縣刈羽郡西山驛前日本石油株式會社　同　西山出張所
東京市外大井町三一三一　東京帝國大學學生　准會員　横山正博
福島縣河沼郡日橋村藤田組廣田製鋼所所員　同　小野崎中三
同　前　同　山崎進
東京市下谷區仲徒町二ノ六七關根方　東京帝國大學學生　同　佐々川清
東京市本郷區龍岡町二三中村館方　同前　同　齋藤彌平
東京市下谷區御徒町二ノ三四服部方　同前　同　谷村凞
東京市牛込區市ケ谷山伏町三　同前　同　平岡正哉
東京市京橋區元數寄屋町二ノ六　同前　同　澤本千代次郎
東京市外大久保百人町一九二　同前　同　井村重帶
東京市小石川區春日町五〇大川方　同前　同　江口喜一
東京帝國大學工學部鐵冶金科教室　同前　同　山本貞次郎
東京市本郷區駒込林町一八二旭館方　同前　同　小林德孝
東京帝國大學工學部鐵冶金科　同前　同　堀江鐵男

轉居（新住所左の如し）

島根縣能義郡安來町　永井米造
山形縣南村山郡本莊村金山鑛業所　堀內信太郎
東京市本郷區田町二三太田方　小田康平
東京市京橋區三十間堀町三ノ四　平山茂
大阪市北區南同心町二丁目八一四　竹內市右衛門
神戸市兵庫下澤通七丁目七七ノ二　原田永佐
東京府下大井町瀧王寺四六三一　玉井秋治
大阪砲兵工廠內　能村磐夫
東京市京橋區岡崎町一ノ四四石田方　西山彌太郎
神戸三菱造船所技手　岩本溫良
%J & E. Hall Iron works, Dartford, Kent., England.　前川清
東京市芝區高輪南町二八　由本惣治
東京府下日暮里渡邊町一〇三五　小泉二郎
八幡市外大藏羽衣町一丁目　日高政一
東京市赤坂區青山南町五ノ四五　丸巖
東京砲兵工廠內陸軍科學研究所　大野宗平
東京市麻布區本村町五二　清水豐次郎
名古屋市東區古出來町一六六　小島四郎治
東京市小石川白山前町一、淺野製鐵所員　今村甚一
南滿洲鞍山製鐵所　梅津常三郎
群馬縣勢多郡東村字花輪二八九　伊藤信太郎
香川縣三豐郡仁尾町大矢根商會內　山路孫三郎
福岡縣鞍手郡直方町御館山石炭坑爆發豫防調査所福岡鑛務技師　西牟田豐民
朝鮮黃海道黃洲郡兼二浦三菱製鐵所銑鋼部檢定課　新井清二郎
東京府豐多郡澁谷町青山北町七丁目二（芝四二五一）　一色虎兒
名古屋市西區俵町三丁目二ノ第二ノ一本會電氣製鐵會社技師　石澤命春
福岡縣遠賀郡戸畑町株式會社九州工作所　野田信之
東京市本郷區駒込神明町三七四　北上宇八
名古屋市南區熱田三本杉七五　塚本辰次郎
東京市荏原郡目黑村字三田二七三　兒玉良太郎
神奈川縣鎌倉町雪ノ下字大倉五七三　小幡文三郎
南滿洲撫順大阪亞鉛會社宅　鹽田實造
佐世保市島瀨町四六　平瀨又雄
吳市山手通二十七番ノ八　野田鶴雄
名古屋市名古屋兵器製造所　森下義史
兵庫縣武庫郡西宮町　矢野純太郎
大分縣東國東郡守江村　渡邊豐

下關市仲之町八九秋元合名會社內　澁谷　蔦
南滿洲鞍山製鐵所工務課設計科　中黑義郎
神戸脇ノ町川崎造船葺合工場製鋼掛　鹽川　宏
福岡縣小倉市紺屋町二一四ノ一　久保喜內
大阪市北區曾根崎中二丁目、一八二、大八商店　小泉哲三

死亡

准會員松平勝俊氏及山縣文吉氏は大正八年五月死亡せられたり誠に哀悼の至りなり謹て弔す

山縣工學士變死

五月十日午前六時三十分輪西製鋲所第三熔鑛爐瓦斯大爆發を爲し、作業中なる工學士山縣文吉(二六)は即死し、役員一名精錬工夫一名及ひ外三名は重輕傷を負ひ、直に日本製鋼所病院に收容したり。慘死せる山縣工學士は昨年の東大優等卒業生なり。(朝日)